

次期基本計画における重点戦略（案）

重点戦略とは

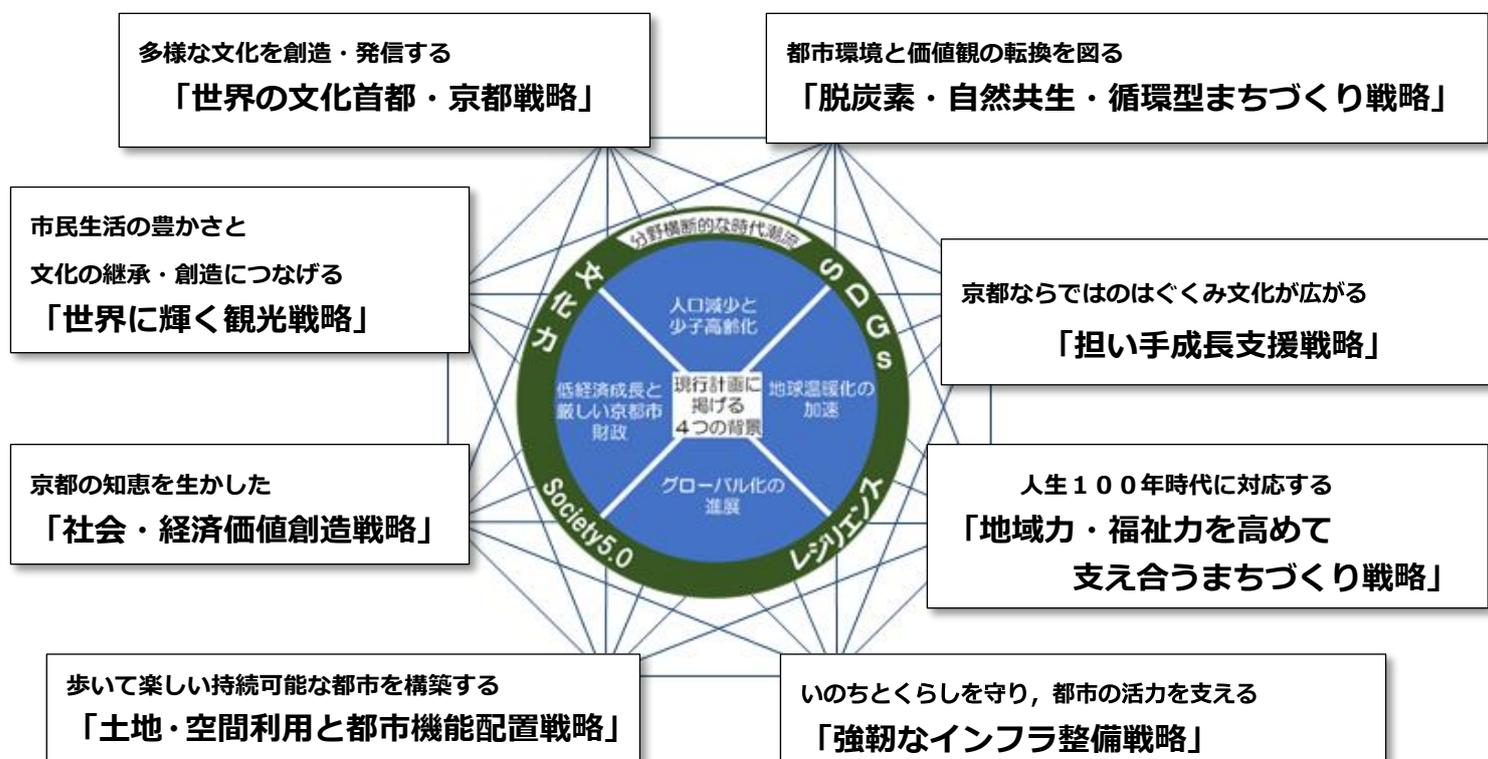
京都の未来像を実現するための方策として、未来像相互の関連性に着目しながら、単一分野だけでなく、複数の行政分野を融合し、とくに優先的に取り組むべきもの。

＜要件＞

- ① 未来像を実現するために、とくに優先的に取り組むべき政策
- ② 「京都らしさ、独自性」といった都市特性や強みを生かす政策
- ③ 行政だけでなく、市民や企業と「共汗」して推進する政策
- ④ 単一分野だけでなく、複数の行政分野を「融合」した政策

＜検討の視点＞

- ① 未来に種をまく視点【奥野委員，松井委員】
- ② 多様性の視点（性別・世代・属性・京都の外からなど）
【村井委員，安保委員，長上委員，三木委員】
- ③ 優先順位・トレードオフではない WIN-WIN を探す視点【曾我委員】
- ④ 京都の資産を活用して価値を生み出す視点【立石委員，鈴木委員】



【重点戦略文案】

【作成根拠】

※審議会で議論した「重点戦略の構成要素」とキーワードや委員意見（発言委員名）※敬称略

<p>多様な^①文化を創造・発信する「世界の文化首都・京都戦略」</p>	<p>第2回審議会で提示した戦略名：新たな文化を創造・発信する世界の文化首都・京都 複数の戦略に出てくる「文化」「まちづくり戦略」という言葉の整理を（曾我，長上）</p>
<p>京都が蓄積してきた有形無形の豊かな文化^②を土台に，ひとびとの暮らしと産業の豊かさ^③や平和・共生社会の実現^④，持続可能な社会の発展のよりどころとなる多様な文化を創造・発信^⑤する。</p>	<p>①京都にはさまざまな文化がある（鈴木，内海） ②有形無形の京都文化遺産の継承（池坊） ③経済の活性化・観光との連動（鈴木，三木） ③ものづくり都市である京都は「産業」の豊かさも重要（宗田） ④平和・共生社会の実現 ⑤京都にはさまざまな文化がある（鈴木，内海）</p>
<p>そのために， ●文化を基軸とした新たな価値の創出・共生社会の実現 豊かな人間性を育み，質の高い経済活動を生むなど，文化がもつ多様な価値を生かし，産業や教育，福祉，まちづくり，環境などあらゆる政策分野と，ものづくりやもてなしの心などの京都が育ててきた文化が連携・融合^⑥することで，文化を基軸とした新たな価値の創出や平和・共生社会実現^⑦のための基盤づくりを進める。</p>	<p>●文化を基軸とした新たな価値の創出・共生社会の実現 ⑥経済の活性化・観光との連動（鈴木，三木） ⑥ものづくり文化が重要。市民・事業者がモノをつくり，発信する中でおもてなしや設えの美しさが伝わり，経済に結び付いていく（宗田）。 ⑦文化によるイノベーション創出，⑦平和・共生社会の実現</p>
<p>●創造的な担い手の育成・世界との交流 文化に触れる機会^⑧や文化芸術の拠点・発信機能等を充実^⑨することで，文化の継承・創造の担い手の育成・創造環境を整備するとともに^⑩，広く世界の文化を受け入れ，新たな文化を生み出す文化交流^⑪を図る。</p>	<p>●創造的な担い手の育成・世界との交流 ⑧日常的に文化に親しむ機会の創出（山本，川崎），⑧親子ぐるみでの体験（内海）， ⑧子どもへの継承・実体験（奥野，三木，廣岡） ⑨芸術活動の拠点づくり（川崎） ⑩担い手の育成と創造環境の整備（池坊，三木） ⑪国内外の文化交流の促進，⑪文化の戦略では国際化の観点が必要（宗田） ⑪文化の創造・発信だけでなく，「異文化の受容」の観点も重要（宗田） ⑪多様性の受容が大切。京都には元来，その土壌があるが，特に今は多国籍なまちになっている（前田） ⑪文化の次世代への継承には海外の方にも日本の文化を体験・知ってもらう必要がある（山本）</p>
<p>●優れた景観や暮らしの文化など有形無形の京都文化遺産の保全・活用・創造の好循環の創出 京町家などの趣ある都市景観^⑫，自然景観と文化的資産が一体となった歴史的風土，食文化などの暮らしの文化^⑬をはじめとした有形無形の京都文化遺産を保全・継承^⑭するとともに，その特性に応じた^⑮活用・創造^⑯につなげる好循環^⑰を創出する。</p>	<p>●豊かな自然景観・都市景観をはじめとした京都の景観の保全・創造 ●暮らしの文化をはじめとした有形無形の京都文化遺産の継承と活用の好循環の創出 ⑫豊かな自然景観の保全，⑫京町家等の都市景観の保全（川崎，立石）， ⑬食文化・生活文化の継承（奥野，三木） ⑭有形無形の京都文化遺産の継承（池坊），⑭京都の景観の守るべき骨格の堅持・充実 ⑮地域特性を踏まえたきめ細かな対応（川崎） ⑯景観の「保全・充実」ではなく，「保全・創造あるいは都市デザイン」ではないか（川崎） ⑯規制法を含む創造法への景観政策の進化（川崎） ⑰保存と活用の好循環の創出（鈴木，三木）</p>

【重点戦略文案】

【作成根拠】

※審議会で議論した「重点戦略の構成要素」とキーワードや委員意見（発言委員名）※敬称略

<p>都市環境^①と価値観の転換を図る「脱炭素・自然共生・循環型まちづくり戦略」</p>	<p>第2回審議会に提示した戦略名：都市文化と価値観の転換を図る「脱炭素・循環型まちづくり戦略」</p>
<p>2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」^②をはじめ、環境と調和した持続可能な都市文明の構築に向けて、<u>都市環境や価値観^③</u>、ライフスタイル、産業構造などの抜本的な転換を進める。</p>	<p>①都市文化・価値観の転換（仁連）、①「都市文化の転換」ではなく「都市環境の転換」では（川崎） ②二酸化炭素排出量正味ゼロに向けた社会の実現（仁連）、②パリ協定、②1.5℃を目指す京都アピール ③都市文化・価値観の転換（仁連）、③「都市文化の転換」ではなく「都市環境の転換」では（川崎）</p>
<p>そのために、 ●2050年の二酸化炭素排出量正味ゼロに向けた社会の実現 <u>二酸化炭素を排出しない建築物の普及^④</u>や CASE・MaaS*といった新技術・新概念を踏まえた脱炭素型の交通体系^⑤の構築、 徹底した省エネの推進や地産地消^⑥など環境にやさしいライフスタイルの定着、 京都市域外との連携^⑦等による再生可能エネルギーの飛躍的な利用拡大など、 <u>市民・事業者・地域等と一体となって^⑧脱炭素社会の構築を推進する。</u></p> <p>※CASE…自動車産業の動向（コネクト・自動運転・シェア・電動化）の略。 MaaS…（マース）：「Mobility as a Service」の略であり、出発地から目的地までの移動ニーズに対して、最適な移動手段をシームレスに提供する等、移動を単なる手段としてではなく、利用者の一元的なサービスとしてとらえる概念。</p>	<p>●2050年の二酸化炭素排出量正味ゼロに向けた社会の実現 ④ゼロエネルギー住宅・建築への転換（仁連）、④住宅の断熱性向上（仁連） ④二酸化炭素を排出しない家やまちの形成（仁連） ⑤電気自動車の活用（仁連）、⑤徒歩・公共交通・自転車のミックス（塚口）、⑤モビリティマネジメント（仁連） ⑤低炭素ではなく脱炭素をめざすなら環境負荷を減らすのではなく「脱炭素型の交通体系」が必要（仁連） ⑥地産地消の仕組みづくり（仁連） ⑦広域連携（仁連） ⑧コミュニティ等を活用した省エネ・再生可能エネルギー拡大（仁連）</p>
<p>●ごみの出ないライフスタイル・ビジネスモデル・地域社会への転換 ものを大切にするしまつの心など先人から受け継いだ伝統を生かし、 <u>食品ロスやプラスチックごみ等の発生抑制^⑨</u>をはじめとした2R（発生抑制・再使用）、 分別・リサイクルの徹底などにより、 <u>ごみの出ない循環型のライフスタイル・ビジネスモデル・地域社会へ転換^⑩する。</u></p>	<p>●ごみの出ない生産体制・ライフスタイル・社会システムの構築 ⑨さらなるごみ対策、⑨プラスチックごみ対策、 ⑩ごみの出ない生産体制・ライフスタイル・地域社会の構築（立石）、⑩動脈産業と静脈産業の循環（立石） ⑩構築ではなく、転換させることが求められる（宗田）</p>
<p>●京都の風土・文化を支える生物多様性の保全 ひとと自然の関わりを大切に、<u>森林や河川、市街地にある庭園や公園^⑪</u>など、 京都の風土・文化を支え、防災・減災にもつながる生物多様性の恵み豊かな自然環境を 保全・再生する。</p>	<p>●京都の風土・文化を支える生物多様性の保全 ⑪森林の再生（牧） ⑪生物多様性に関しては市街地における取組も必要（仁連） ⑫京都の文化を支える自然環境の保全（仁連、池坊） ⑬気候変動による自然災害の続発 ⑭人と自然との関係の再構築</p>
<p>●環境問題を解決するイノベーションの創出・担い手の育成 <u>もったいない、しまつ、おかげさま</u>といった京都人の精神性と、 <u>ものづくり都市が育んできた技術を生かし、^⑮</u> <u>環境と経済の好循環^⑯</u>を創出する産業構造へ転換し、 <u>地域・企業・大学・行政など多様な主体が連携することで^⑰</u>、 <u>環境問題の解決に資するイノベーション^⑱</u>を促進するとともに、 持続可能な社会を構築する環境保全活動を支える担い手を育成する。</p>	<p>●環境問題を解決するイノベーションの創出 ⑮伝統産業がコアコンピタンス（ものづくり技術）を見直すことで先端産業につながっているというストーリーのように、イノベーションも大きなストーリーの中で説明する方が分かりやすい。環境分野では「もったいない」や「しまつ」といった京都らしいキーワードが基本概念としてあると良い（原） ⑯環境と経済との好循環が重要。成長すれば何でも良いわけではなく選択的に成長することが必要（仁連） ⑰イノベーションには産業界の後押しが重要（宗田） ⑱社会課題を解決するイノベーション創出（仁連）</p>

【重点戦略文案】

【作成根拠】

※審議会で議論した「重点戦略の構成要素」とキーワードや委員意見（発言委員名）※敬称略

<p>京都ならではのほぐみ文化が広がる「担い手成長支援^①戦略」</p>	<p>第2回審議会で提示した戦略名：京都ならではのほぐみ文化が息づく「次代の担い手育成戦略」 ①戦略名は「育成」という支援側の目線ではなく、「成長」ではないか（安保）</p>
<p>社会全体でひとづくりを大切にする風土，自己成長できる風土が培われている 京都ならではのほぐみ文化^②を基礎に，すべてのひとに質の高い教育を提供できるよう， 学校・家庭・地域の絆等を生かすとともに，大学や企業等とも連携しながら 子どもから大人までみずから学び成長し，その成果を生かすことができるまちづくりを進める。</p>	<p>②京都ならではの育ち（内海）</p>
<p>そのために， ●子どもを楽しく生み育てられる環境づくり 身近な地域における子育て支援機能の充実など，<u>子育て家庭に寄り添い^③， 社会全体で楽しく子どもを生み育てられる環境づくり^④を進める。</u></p>	<p>●子どもを楽しく生み育てられる環境づくり ③子育てへの寄り添い（前田） ④地域ぐるみの子育て支援（奥野，安保，内海），④スマート子育て社会（奥野）④保育の担い手確保（内海）， ④少子化対策（内海，前田，松井）</p>
<p>●子ども・若者が主体的に学び合い・育ち合う環境づくり 子ども・若者が<u>社会とのかかわりを自覚^⑤し，互いに学び合い・育ち合うなかで^⑥自己肯定感や 自立心^⑦，多様性を認め合う思いやりや寛容性を育み， さまざまな挑戦を可能とする^⑧環境づくりを進める。</u></p>	<p>●子ども・若者が主体的に学び合い・育ち合う環境づくり ⑤職業観・職業倫理の教育・インターンシップ（鈴木），⑤社会との関わりを意識した教育 ⑥学び合い・育ち合う環境づくり（内海） ⑦自己肯定感・自立心の育み（前田） ⑧さまざまな挑戦を可能とする社会構築，⑧多様な才能を伸ばす教育（前田）</p>
<p>●とくに支援を要する子ども・若者やその家庭等への切れ目ない支援・居場所づくり <u>貧困やDV，児童虐待，ひきこもり，ひとり親家庭など，とくに支援を要する^⑨ 子ども・若者やその家庭等に対する切れ目ない支援^⑩を充実するとともに， 子育て家庭・子ども・若者の孤立防止に向け^⑪， 安心できる居場所づくり^⑫や参加しやすいコミュニティづくり^⑬を進める。</u></p>	<p>●困難を有する子ども・若者への切れ目ない支援・居場所づくり ⑨長期化・高齢化するひきこもりへの対応，⑨医療的ケア児・障害児への対応，⑨児童虐待・いじめ・不登校対策， ⑨貧困対策，⑨生きづらさを感じている子ども・若者への支援（安保，長上，前田） ⑨さまざまな社会的弱者への配慮が必要（安保） ⑩切れ目ない支援（安保，長上） ⑪第3の居場所づくり（安保） ⑫参加しやすい地域・コミュニティづくり（安保）</p>
<p>●大学・学生のまちの特性を生かした経済・文化・地域の担い手の育成 個性・特色あふれる多様な大学の意欲的な挑戦を後押しし， <u>大学の知恵の活用や大学と地域・企業との連携^⑭，リカレント教育をはじめとする生涯学習^⑮を 進めるとともに，留学生・研究者等の誘致・定着や海外の大学，起業家との 交流など大学・学生の国際化^⑯を促進することで，多様な学生がともに京都で学び， 将来的にも京都で活躍する国際性豊かな環境づくりを進め，あらゆる世代にわたって 京都の経済・文化・地域の担い手を育成する。</u></p> <p>※リカレント教育…社会人の学び直し。社会人が職業上必要な知識・技術の習得や， 心の豊かさや生きがいのための学び等を生涯に渡って繰り返すことができるしくみ。</p>	<p>●大学・学生のまちの特性を生かした国際性豊かなまちづくり ●学びを社会に還元できる環境づくり ⑬学生にやさしいまちづくり（山本） ⑭リカレント教育（廣岡），⑭いつでも学び直せる環境づくり ⑮大学・学生の国際化，⑮学生・留学生への京都文化の浸透（安保，山本），⑬国際化の観点を（宗田） ⑮留学生や研究者だけでなく，今後を見据えるとアントレプレナー（起業家）の誘致もめざしていくべき（原）</p>

【重点戦略文案】

【作成根拠】

※審議会で議論した「重点戦略の構成要素」とキーワードや委員意見（発言委員名）※敬称略

<p>人生100年時代に対応する「地域力・福祉力^①を高めて^②支え合うまちづくり戦略」</p>	<p>第2回審議会で提示した戦略名：人生100年時代に対応する「<u>地域力を生かして支え合うまちづくり戦略</u>」 ^①戦略名にも福祉という言葉を入れたほうがよい。「まちづくり・福祉戦略」ではないか（長上） ^②地域力が衰退しており、「地域力を生かす」ではなく、「地域力を高める」、「地域を活性化する」戦略では（長上）</p>
<p><u>だれひとり取り残されることがない^③よう、市民・事業者・行政相互の信頼^④・地域力^⑤・福祉力^⑥を高め、安心安全で^⑦生涯にわたって活躍できる^⑧支え合いのまちづくりを進める。</u></p>	<p>^③誰一人取り残さない地域社会づくり ^④各戦略に「信頼」の観点を入れてはどうか（曾我）、^④「市民・事業者・行政」の信頼が重要（宗田） ^⑤地域力が衰退しており、「地域力を生かす」ではなく、「地域力を高める」、「地域を活性化する」戦略では（長上） ^⑥戦略名にも福祉という言葉を入れたほうがよい。（長上） ^⑦世界一安心安全なまちづくり ^⑧健康長寿・高齢者の活躍（松井、奥野）</p>
<p>そのために、 ●多様なコミュニティの自主的・自律的な活動の促進 <u>仕事と家庭生活の調和に加え、地域活動や社会貢献への積極的な参加を支援する^⑨</u> とともに、京都が大切に守ってきた自治の伝統を生かし、<u>自治会・町内会^⑩をはじめ、地域に関わる多様なコミュニティの自主的・自律的な活動を促進^⑪することにより、地域主体のまちづくりを進める。</u></p>	<p>●多様なコミュニティの自主的・自律的な活動の促進 ^⑨働きながらも地域活動に参加できる方策・モデルが必要（廣岡） ^⑨働き方改革で生まれた余暇を地域活動につなげることが必要（安保） ^⑩自治会・町内会の活性化 ^⑪コミュニティづくり・場づくりを促進する共有空間（コモンズ）が重要（宗田、仁連） ^⑪コミュニティの多様化（SNS、子ども食堂等）（安保）、 ^⑪行政が地域全体を見渡して、自治会、NPO、それぞれがどこまでできるか見極めて支援することが重要（安保）</p>
<p>●福祉と共生のまちづくり <u>社会的孤立状態にあるひきこもりや8050問題^⑫、セルフネグレクト^⑬など複雑多様化する地域課題^⑭や、国籍や文化的背景の多様化^⑮、高齢者や障害のあるひとなどの生活課題、罪を償ったひとの円滑な社会復帰など、さまざまな支援ニーズ^⑯に対し、地域・行政・支援関係機関等による協働の取組を進めることで、<u>互いに違いを認め合い、だれもが尊重され、地域、くらし、生きがいをともにつくり、高め合うことができる地域共生社会を構築する^⑰。</u> <small>※8050問題…80代の親とひきこもり状態の50代の子が同居する世帯の孤立化・困窮化に伴うさまざまな問題。セルフネグレクト…介護・医療サービスの利用を拒否するなどにより、社会から孤立し、生活行為や心身の健康維持ができなくなっている状態。</small></u></p>	<p>●誰ひとり取り残さないまちづくり ^⑫社会的孤立・8050問題への対応（長上） ^⑬複雑化する地域課題へのニーズに応じた対応（長上、安保） ^⑭今後、大きく増えることが想定される外国人労働者との共生の観点も重要（牧） ^⑮支援ニーズがあるのは高齢者や障害のあるひとに限らない。罪を償ったひとなど、さまざまな社会的弱者への配慮が必要（安保） ^⑰多文化共生（安保）、^⑰地域共生・社会的包摂（奥野、曾我、宗田）、^⑰ダイバーシティのモデルづくり（奥野） ^⑰個人間・地域間・世代間の格差・断絶の解消（安保、長上、奥野）</p>
<p>●健康長寿のまちづくり <u>フレイル・オーラルフレイル^⑱対策^⑲などの健康づくり、食の安全や感染症の予防、ボランティアや地域活動等の社会参加の促進^⑳、スポーツ^㉑等を通じた体力づくりの取組等を通じ、これまでの経験・知識を生かし、社会における働き手・支え手として、生涯にわたって活躍できる健康長寿のまちづくり^㉒を進める。</u> <small>※フレイル…加齢により心身が衰えた状態。ただし、早期に対策を行えば元の健康な状態に戻る可能性がある。オーラルフレイル…口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含む身体の衰え（フレイル）のひとつ。</small></p>	<p>●高齢者が活躍できる社会づくり ●スポーツ振興・健康長寿・安心安全なくらしの実現 ^⑲フレイル対策 ^⑲健康長寿・高齢者の活躍（松井、奥野） ^㉑ゴールデンスポーツヤーズを契機としたスポーツ振興・文化発信（奥野）、^㉑スポーツを通じた他者への理解の促進（奥野）</p>
<p>●だれもが安心・安全にくらせるまちづくり <u>犯罪抑止・交通事故防止のための環境づくりや再犯防止対策、身近な地域における防犯活動・交通安全運動の拡大^㉓等により、だれもが安心・安全にくらせるまちづくりを進める^㉔。</u></p>	<p>●スポーツ振興・健康長寿・安心安全なくらしの実現 ^㉓犯罪・再犯防止 ^㉔世界一安心安全なまちづくり</p>

【重点戦略文案】

【作成根拠】

※審議会で議論した「重点戦略の構成要素」とキーワードや委員意見（発言委員名）※敬称略

<p>いのちとくらしを守り、都市の活力^①を支える「強靱なインフラ^②整備戦略」</p>	<p>第2回審議会で提示した戦略名：いのちとくらしを守り、市民生活を支える「都市基盤整備戦略」</p> <p>①社会・経済活動を支えるインフラ整備 ②この戦略の対象ではソフト整備も含めて考えるべき（牧，川崎，塚口） ②ソフトも含むなら，名称は「強靱な都市インフラ整備戦略（又は強靱な都市整備戦略）」ではないか（牧）</p>
<p>激甚化する自然災害をはじめ，あらゆる危機にしなやかに対応^③し，市民のいのちとくらしを守るとともに，市民生活の豊かさの向上と多様な経済・文化活動の活性化を支える^④強靱なインフラ[*]を構築^⑤する。</p> <p>※インフラ…インフラストラクチャーの略。この戦略においては，産業や生活の基盤となる建築物や土木施設等のほか，消防や上下水道などの各種公共サービスも含む。^⑥</p>	<p>③危機管理・防災・減災（牧） ④子育てなど生活に直結する観点の基盤整備（安保），④投資を誘発する都市づくり（川崎） ⑤都市基盤の戦略的マネジメント（川崎），⑤「強靱な都市インフラ整備戦略（又は強靱な都市整備戦略）」ではないか（牧） ⑥この戦略におけるインフラは，ハードだけでなく消防などソフトの取組も含めたものであることを注釈として入れた方がよい（牧）</p>
<p>そのために， ●既存施設の有効活用 市民生活の安心・安全や都市の活力につながるよう，再編・統廃合等による施設量の最適化や予防的・計画的な維持管理・改修等による長寿命化^⑦，既存建築物等の流通促進^⑧などの既存施設の有効活用を進める。</p>	<p>●都市機能の高度化・長寿命化など都市インフラの戦略的マネジメント ⑦都市基盤の長寿命化・機能向上 ⑧空き家の有効活用（鈴木），⑧古いビル等の活用も今後は重要になる（牧）</p>
<p>●いのちとくらしを守るインフラ整備 災害に強く，市民のいのちとくらしを守るインフラ整備^⑨を進めることに加え，AI・SNS等をはじめとする先端技術・ICTインフラの活用等^⑩によって地域の防災力・安全性を高めるとともに^⑪，京都らしさを守りながら被害を最小化し，速やかに復旧・復興するためのしくみの強化など，総合的な防災・減災対策を推進する^⑫。</p>	<p>●危機管理・防災・減災など，いのちとくらしを守るインフラ整備 ⑨南海トラフ地震への備え，⑨災害の激甚化・スーパー台風への対応（牧），⑨リダンダンシーの確保，⑨山を守る（牧），⑩情報インフラの活用（川崎） ⑩京都らしさを守りながらの復興（牧），⑩木造建築物の火災対策（牧） ⑪道路等の損傷箇所を投稿するアプリもある中では，ICTインフラ等の活用先をもう少し広くとらえ，防災だけでなく，安全性も含めたほうがよい（牧）。 ⑫木造建築物の火災対策など，京都らしさは「被害の最小化」においても重要。そのうえで，総合的な防災対策を進める必要がある（牧） ⑫防災はソフト面・ハード面の取組が必要（村井）</p>
<p>●市民生活と経済・文化活動を支えるインフラ整備 広域的な交通ネットワークの形成^⑬や，だれもが使いやすく健康や環境等にも配慮したストック[*]への誘導^⑭，質の高い緑の空間整備等による快適な都市環境の創出^⑮など，まちの賑わいを高め，市民生活^⑯と多様な経済・文化活動を支えるインフラ整備^⑰を進める。</p> <p>※ストック…道路・港湾・住宅・公園・緑地・病院など，市民生活の基盤を表す。</p>	<p>●広域ネットワークなど，社会・経済活動を支えるインフラ整備 ⑬広域ネットワークの形成（塚口，牧） ⑭子育てなど生活に直結する観点の基盤整備（安保），⑭ウェルネスインフラ・グリーンインフラの構築（川崎） ⑭ユニバーサルデザイン，⑭防災と景観を両立するインフラ整備（川崎） ⑮水と緑の活用が重要（仁連） ⑯地域力や福祉の支えとなる「生活基盤」という言葉を加える必要がある（長上） ⑰投資を誘発する都市づくり（川崎）</p>

【重点戦略文案】

【作成根拠】

※審議会で議論した「重点戦略の構成要素」とキーワードや委員意見（発言委員名）※敬称略

<p>歩いて楽しい持続可能な都市を構築する「土地・空間^①利用と都市機能配置^②戦略」</p>	<p>第2回審議会で提示した戦略名：公共交通を基軸とする「歩いて楽しい持続可能なまちづくり戦略」</p> <p>①「土地利用」と表現すると限定的なイメージとなるため、公共空間や産業用地・空間等も含めて「土地・空間利用」と表現してはどうか（立石）</p> <p>②複数の戦略に出てくる「文化」「まちづくり戦略」という言葉の整理を（曾我，長上）</p>
<p>多様な地域がネットワーク^③し、将来にわたって暮らしやすく、訪れるひとびとにとっても快適で歩く楽しさにあふれた魅力を備え^④、活力ある産業の発展を支える^⑤京都ならではの持続可能な都市を構築する。</p>	<p>③コンパクト+ネットワーク（牧）</p> <p>④歩いて楽しい空間づくり</p> <p>⑤住む場所・働く場所の確保は重要（牧），⑤価値創造に貢献する要素を（宗田），⑤産業振興の骨格整備の観点を入れては（川崎）</p>
<p>そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●くらしと産業を支える土地・空間利用の促進 <p>公共交通や日常生活を支える施設の利便性の確保等による安心・安全で快適にくらせる居住環境の形成^⑥，産業用地・空間の確保等による産業の活性化と働く場の確保^⑦など，市民のくらしと産業を支える土地・空間利用を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●住む場所・働く場所の確保をはじめ，くらしと産業を支える土地利用の促進 <p>⑥若年層の定着（廣岡），⑥⑦住む場所・働く場所の確保は重要（牧），⑦産業振興の骨格整備の観点を入れては（川崎），⑦価値創造に貢献する要素を（宗田）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●地域の個性と魅力を生かしたまちづくり <p>主要な公共交通拠点を中心に都市機能の集積を図る^⑧とともに，芸術などの地域の特性を生かした拠点づくり^⑨，地域に応じたよりきめ細かな景観形成，まちづくりの担い手創出^⑩と結び付いたエリアマネジメント^⑪の推進など，都心部や周辺部など，それぞれの特性に応じ，地域の個性と魅力を生かしたまちづくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●駅勢圏を中心とした拠点づくりなど地域の個性と魅力を生かした都市機能配置 <p>⑧駅勢圏拠点エリアの創出（川崎），⑨産業・芸術・スポーツなど活力や賑わいを生み出す質の高い拠点づくり（川崎），⑨京都市立芸術大学の移転（川崎）</p> <p>⑩まちづくりの担い手創出（川崎）</p> <p>⑪エリアマネジメント</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の利便性・快適性の向上 <p>ひとの流れが集中する駅やバスターミナル等の交通結節機能の分散化やバリアフリー化の促進，公共交通の担い手の確保^⑫，自転車の利用環境の充実^⑬等により，だれもが安全・快適・便利に移動できる交通体系の構築^⑭を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●市民・観光客双方の利便性・快適性の向上に向けた公共交通の充実 <p>⑫公共交通の利便性向上・担い手確保</p> <p>⑬自転車環境の整備（奥野，塚口）</p> <p>⑭徒歩・公共交通・自転車のミックス（塚口）</p> <p>⑭大量・高速の移動手段だけでなく，社会的弱者の移動手段の確保も重要（塚口）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●交通に関する新技術・新概念の活用^⑮ <p>新たな交通システムを見据えたIoTやAI，自動運転などの新技術，移動や交通をサービスとして捉える新概念「MaaS」の活用を推進する^⑯。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自動運転等の新技術・新概念（MaaS）の活用 <p>⑮新技術・新概念（MaaS）の活用（仁連），⑮モビリティマネジメント（仁連），⑮ライドシェア</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●歩くくらしを大切にするライフスタイルの促進 <p>安心・安全で魅力的な歩行空間の創出^⑰とともに，健康増進など歩くことの付加価値の発信等により，歩くくらしを大切にするスマートなライフスタイルの実践を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●魅力的な歩行空間の創出・歩くことの付加価値の発信 <p>⑰歩いて楽しい空間づくり</p>

【重点戦略文案】

【作成根拠】

※審議会で議論した「重点戦略の構成要素」とキーワードや委員意見（発言委員名）※敬称略

<p>京都の知恵^①を生かした「社会・経済^②価値創造戦略」</p>	<p>第2回審議会で提示した戦略名：京都の文化、知恵を生かした「価値創造戦略」</p> <p>①複数の戦略に出てくる「文化」「まちづくり戦略」という言葉の整理を（曾我，長上）</p> <p>②戦略名に「社会価値・経済価値の創造」という言葉を入れたほうがよい（川崎）</p>
<p>京都に積み重ねられた知恵や、芸術や伝統産業などの技術、さらには京都が育ててきた「めきき」、 「たくみ」といった資産を生かす^③とともに、国内外からさまざまなひと・企業を呼び込み^④、 社会課題の解決^⑤に向けて地域・企業・大学・行政など多様な主体が連携する^⑥ことで、 人間らしい豊かさと新たな社会・経済価値を創造^⑦する持続可能な^⑧エコシステムを構築する^⑨。</p>	<p>③京都の資産を活用して価値を生み出す視点が重要（鈴木，立石）</p> <p>③Society5.0の到来やAIの進展に伴い、人間しか担えない高度な対人接遇や高度な創造が重要になる。AIからは引き出せない京都ならではの感性を産業の発展に向けて組み込んでいく必要がある（原）</p> <p>④産業人材の育成環境の整備・集積・ミックス（鈴木，廣岡，川崎，立石），④企業誘致（川崎）</p> <p>④学生に選ばれるまちづくり（廣岡），④外国の知的労働者の定着とそのための環境整備（鈴木，牧），</p> <p>⑤イノベーションによるさまざまなニーズへの対応，⑥価値創造には民間だけでなく行政の取組も重要（曾我，宗田）</p> <p>⑥オープンイノベーション・交流（鈴木，廣岡，立石）</p> <p>⑦人間らしい豊かさ（ローカル価値，アナログ価値）（立石）</p> <p>⑧サステナブルという切り口で見ていくことが重要（鈴木），⑧ESG投資の呼込</p> <p>⑨スタートアップ・クリエイティブな次世代産業を生み出すエコ・システムの構築</p>
<p>そのために、 ●地域企業等の活性化と企業立地の促進 <u>伝統産業などのものづくりや商店街，農林業，サービス産業など，</u> <u>京都の生活文化を支えながら成長してきた地域企業等の知恵を承継^⑩し，</u> <u>さまざまな産業を活性化することで，多様な担い手への質の高い雇用と活躍の場の提供や</u> <u>各世代の課題に応じた雇用促進^⑪を図る。加えて，クリエイティブな人材や企業・学術研究</u> <u>機関等の集積・共創に向けた環境整備^⑫を進める。</u></p>	<p>●地域企業・伝統産業など京都独自の知恵の承継・担い手の育成</p> <p>●働く場の確保と企業立地の促進・集積</p> <p>⑩地域企業の活性化，⑩伝統産業の継承・イノベーション（鈴木），⑩事業承継，⑩伝統産業の担い手も重要（仁連）</p> <p>⑩ものづくり文化が重要。市民・事業者がモノをつくり，発信する中でおもてなしや設えの美しさが伝わり， 経済に結び付いていく（宗田），⑩商店街も触れておいた方が良いのではないかと（牧）</p> <p>⑩地域特性や企業独自の強みを生かした知恵の活用（鈴木，立石）</p> <p>⑪雇用・産業用地の創出（川崎，牧），⑪学生に選ばれるまちづくり（廣岡），⑪入管法改正・外国人労働者</p> <p>⑪企業誘致（川崎），⑪南部地域の創造（川崎），⑪外国の知的労働者の定着とそのための環境整備（鈴木，牧），</p> <p>⑪正規雇用の少なさが問題となっている氷河期世代など，各世代の課題に応じた雇用促進が重要（奥野）</p> <p>⑫クリエイティブ・クリエイティブクラスといった観点が必要では（川崎），⑫優秀な人材を集めるインフラ整備（牧）</p> <p>⑫産業人材の育成環境の整備・集積・ミックス（鈴木，廣岡，川崎，立石），⑫オープンイノベーション・交流（鈴木，廣岡，立石）</p> <p>⑫クリエイティブ産業・サステナブルな産業のクラスター化（鈴木，川崎，立石，原）</p>
<p>●世界に羽ばたく企業が生まれるスタートアップ・エコシステムの形成・新市場の開拓 <u>京都が育ててきた芸術や伝統産業等の技術，さらには最先端の科学技術等^⑬を生かすと</u> <u>ともに，大学やアクセラレーター*等との連携により，</u> <u>世界から新たな起業家を受け入れるとともに，次代を担う起業家を生み^⑭，</u> <u>成長を促進させるスタートアップ・エコシステムを形成^⑮することで，</u> <u>さまざまな社会課題を解決するソーシャル・イノベーション^⑯，新たな価値を創造する</u> <u>次世代産業等を継続的に生み出す環境^⑰を構築し，新市場の開拓^⑱を促進する。</u></p> <p>※アクセラレーター…起業家や創業間もない企業等に対して成長を加速させる支援を行う企業等。</p>	<p>●スタートアップ・クリエイティブな次世代産業を生み出すエコシステムの構築</p> <p>●さまざまな社会課題を解決するソーシャル・イノベーションの創出</p> <p>⑬地域特性や企業独自の強みを生かした知恵の活用（鈴木，立石）</p> <p>⑭今後を見据えるとアントレプレナー（起業家）の誘致もめざしていくべき（原）</p> <p>⑮スタートアップを生み出すエコシステムの構築，⑮伝統産業の継承・イノベーション（鈴木）</p> <p>⑯イノベーションによるさまざまなニーズへの対応</p> <p>⑰グローバル新市場の開拓・創造</p>
<p>●多様で柔軟な働き方の促進・生産性の向上 <u>多様で柔軟な働き方^⑲を促進し，多様な人材を呼び込む^⑳とともに，</u> <u>京都経済を支える人材を育成することで，生産性の向上^㉑や</u> <u>安心して働きがいのある仕事や職場づくり^㉒を促進する。</u></p>	<p>●多様で柔軟な働き方改革・生産性の向上</p> <p>⑲働き方改革（内海，廣岡），⑲産業人材の育成環境の整備・集積・ミックス（鈴木，廣岡，川崎，立石）</p> <p>⑳生産性の向上（鈴木，立石，原，廣岡），㉑ディーセントワーク</p>

【重点戦略文案】

【作成根拠】

※審議会で議論した「重点戦略の構成要素」とキーワードや委員意見（発言委員名）※敬称略

<p>市民生活の豊かさと文化の継承・創造につなげる^①「世界に輝く^②観光戦略」</p>	<p>第2回審議会で提示した戦略名：文化を磨き上げ、市民の豊かさにつなげる「世界と交流する観光戦略」</p> <p>①観光を活用して文化を継承するのが京都。観光でどう市民生活を潤わせるかが重要（宗田）</p> <p>①複数の戦略に出てくる「文化」「まちづくり戦略」という言葉の整理を（曾我，長上）</p> <p>②もはや京都はヨーロッパの観光都市を追い抜いている。「世界と交流する」にとどまらず、「世界に輝く」と言っても良いのでは（宗田）</p>
<p>国内外のひとびとを引きつける京都の魅力^③を生かし、世界と交流^④することで市民生活の豊かさ^⑤と地域の活性化^⑥、ひいては文化の継承・創造につなげるなど、市民生活との調和を最重要視した^⑦持続可能な観光都市を実現する新たな京都モデルを構築・発信する。</p>	<p>③世界的な観光客増加，④京都の価値の再認識・世界への発信，④観光立国</p> <p>⑤観光については市民生活が一番ということを市民にわかりやすく伝えることが重要（奥野）</p> <p>⑥観光効果の市域全体への還元（山本）</p> <p>⑦市民生活との調和（立石，宗田）</p>
<p>そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民生活との調和を最重要視し、市民の豊かさにつながる観光の実現 <p>観光客の分散化^⑧や観光マナーの向上^⑨，より質の高い宿泊観光への進化など，観光の質の向上を図り^⑩，市民生活と観光との調和を最重要視する^⑪とともに，観光による経済効果を市域全体に還元^⑫し，地域の文化の継承・発展と幅広い産業の発展等に波及させることで，市民生活の豊かさの向上^⑬につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●市民生活と調和し、市民の豊かさにつながる観光の実現 ●観光による活性化・経済効果の市域全体への還元 <p>⑧観光客の分散化（山本），⑧観光マナー向上，⑧多文化共生，⑧文化の相互理解の推進，⑩民泊（違法対策→上質化），⑩質のさらなる向上，⑪市民生活との調和（立石，宗田），⑪市民・観光客の安心安全，⑫観光効果の市域全体への還元（山本）</p> <p>⑬観光については市民生活が一番ということを市民にわかりやすく伝えることが重要（奥野）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●MICEの積極的誘致・国際交流 <p>大阪・関西万博などの機会^⑭を生かした京都の魅力の創造・発信や，国内外のMICE*の積極的な誘致^⑮などにより，世界との交流^⑯を図り，文化の相互理解・価値観の共有を進め，平和の実現に貢献する。</p> <p>※MICE（マイス）…企業のミーティング，企業研修旅行，国際会議，イベントなどの総称。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●MICEの積極的誘致 <p>⑭⑮大阪・関西万博・MICE</p> <p>⑯京都の価値の再認識・世界への発信，⑯世界的な観光客の増加</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●「おもてなし」を実践する担い手の育成・環境整備 <p>地域・大学・企業等との連携により，京都にふさわしい高度なホスピタリティを実践する担い手の育成^⑰や職としての魅力^⑱・生産性の向上^⑲を図るとともに，多言語対応，キャッシュレス化等の環境整備^⑳を推進することで，観光産業の高付加価値化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「おもてなし」を実践する担い手の育成・環境整備 <p>⑰ホスピタリティ・おもてなし（奥野，原，廣岡）</p> <p>⑱観光の担い手の職としての魅力向上</p> <p>⑲観光産業の生産性向上</p> <p>⑳多言語対応，⑳キャッシュレス化（山本）</p>